

1. 実況上の着目点

- ① 日本のはるか東には前線を伴った低気圧があつて北東進。三陸沖には高気圧があつて東へ移動。これらの中で気圧の傾きが大きく、強い風の吹いている所がある。
- ② 東シナ海の500hPa5700m付近にトラフがあつて東進。対応して停滞前線が華南から南西諸島へのびており、前線上の低気圧が東北東進。前線近傍では非常に激しい雨を解析し発雷を検知。
- ③ 大型で強い台風第4号が、マリアナ諸島をゆっくり北東進。
- ④ ①の低気圧や③の台風を波源としたうねりが入り、小笠原諸島、西～北日本の太平洋側では波が高く、しけている所がある。



主要じょう乱解説図

- ⑤ 中国東北区の500hPa5460～5580mにはトラフがあつて東南東進し、対応した地上低気圧が東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は日本のはるか東を北東進し、日本から遠ざかる。また、三陸沖の高気圧は18日にかけて、500hPa5580～5760mの優勢なリッジと共に日本のはるか東へ移動する。
- ② 1項②のトラフは18日にかけて日本の東へ進み、対応する低気圧より先行するため、低気圧は発達することはなく、前線は不明瞭化する見込み。低気圧は19日にかけて東シナ海で動きが遅くなり、東シナ海には850hPa330K以上の下層暖湿気が残るため、大気の状態が不安定となる。九州～南西諸島では18日にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意。19日も対流雲の発達に留意。
- ③ 1項③の台風第4号は、19日にかけて強い勢力を維持したまま小笠原近海から南鳥島近海を北北東へ進む見込み。台風と比較的近い小笠原諸島では、風が強くなり、大しけとなる。小笠原諸島では、18日にかけてうねりを伴う高波に警戒し、強風に注意。
- ④ 1項⑤のトラフが-21℃以下の寒気を伴って、18日は沿海州から日本海へ進み、対応した低気圧はサハリン付近へ進む。低気圧周辺では、上空の寒気や下層暖湿気の影響により、大気の状態が不安定となる所がある。北日本では、18日は落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ⑤ 2項②④の低気圧周辺や、2項①の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなるため、19日にかけて北日本や東日本太平洋側を中心に風が強くなり、波が高くなる所がある。強風や高波に注意。
- ⑥ 全国的に日中は昇温するため、北～東日本の多雪地では19日にかけて、なだれや融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

- 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。
4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：小笠原諸島6、その他広い範囲で4～3m。③ 大潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。